

企業トップに聞く 2025

◆6

応できる。設計で性能も合わせる。われわれが狙っているモーターを制御する電子領域は動く場所が限定されたところ。例えば飛行し、セッパで提案して、現場で作業をする特殊車両や、ゴルフ場で芝を刈る

―2024年を振り返って。

「(昨年) 先行開発ラインでモーターの生産ラインを動かし、いつでも量産できる状態になるよう、試作して準備を整えている。IWMも、一般に減った分を取り返せず、数量的には計画より低

新分野のクラッチを伸ばす

い。材料価格がアップし、(物流業で時間外労働の上限規制を適用する) 2024年問題で輸送コストや人件費も上がったため、お客さんにお願ひして価格転嫁を進め、売り上げ的には23年並みに戻せるかと思う」

ダイナックス

おがわ まこと
小川 真社長



9月にワイナリーが完成

輸入に25%の追加関税という話もあり、どういう影響があるのか今はまだ見えてない状況」

「楽しみな部分もあつて、24年にハンガリーの工場でバッテリーEV、EV向けのクラッチが立ち上がった。25年から本格的に流れ始めるので、新しい分野に使われるクラッチもどんどん伸ばしていきたい」

「23年に創業50周年を迎え、一貫して摩擦材を使った(自動車部品)クラッチ分野、ニーズに注力してきた。摩擦材は自動車分野以外でも使える。50年間の技術があり、いろんな分野から引き合いを受けている。今年はここを伸ばしたい」

「クラッチは、摩擦係数が高いことが良しとされてきたが、それとは別に摩擦係数を極力低くする取り組みもしている。低摩擦の領域は(環境面

で) 規制が強くなり、使える素材が限られてくる中、うちの摩擦材は問題がない。今後伸びる分野だと思う」

―脱炭素の取り組みも盛ん。2023年度は苫小牧工場だけでもPPA(電力販売契約)による大規模太陽光発電設備(メガソーラー)、カーポート型メガソーラー、木質バイオマスボイラーが動き出した。

「昨年は効果として刈り取れる段階に入った。目標では30年に(温室効果ガス) 19年比で46%削減し、50年にカーボンニュートラル(CN、温室効果ガスの排出ゼロ)。24年は37%ぐらいまで低減できる見通し。毎年1%ずつ細かい省エネを積み上げていく。『CN道場』をつくり、省エネに必要な知識や技術を習得する講座を開き、社内の活動を活性化していく。

「23年秋から休業してリニューアルし、24年10月末オープン。名前を『大沼キャンパス』に変え、芝生や園路を再整備し、炊事場を新設。管理棟も改築し、冬季を含め通年営業している。静かな環境でキャンプでき、プライベートサイトは予約も好調。たくさんの人に来てほしい」

メモ

自動車部品クラッチ製造の国内最大手。本社は千歳市で、苫小牧東部産業地域に製造拠点を構える。安平町でワイン事業、厚真町でキャンプ場運営など、異業種への参入も積極的。